

うひはたぶみ (初機踏)

H.A.M.A.木綿庵だより
第77号

2024(令和6)年6月26日

(編集発行 梅田正之 090-5042-7775)

大和機での5作品目 — 経緯糸ともに手紡ぎ糸の白木綿 —

大和機(やまとばた)を用いて織った5作目の作品を、1年4ヶ月ぶりに織り上げることができました。整経長420cm。整経重206g。織筈おさ羽八〇(7羽/1cm)。織り巾34.4cm。経糸数506本。ただし、織り上がりの長さ258cm。織り上げ重214.5g。経糸、緯糸とも自家栽培綿花を糸車で手紡ぎした糸。いずれも単糸。大和機で織った初めての手紡ぎ糸の白木綿です。

今後の参考資料とするために糸紡ぎ、糊付け、整経から織り上げまでの記録を以下に記しておきます。

経糸には比較的最近に手紡ぎした糸を用いるようにしました。理由は経糸としての強度を検証するためです。どのくらいの細さの糸まで経糸として通用するのかを検証するために、あえて太さの異なる糸を準備しました。およそ9番手から12番手くらいを意識しながら紡ぎ分けつつもりです。精練は2023年7月23日。灰汁で行いました。経糸の糊付けは2023年8月6日。経糸の重量430g。小麦粉220ccをボールに入れ、ダメにならないように水110ccを少しずつ加えながら溶き、泡立て器でよく混ぜます。ロウソク小1本を加え、沸騰したお湯550ccを一気に加えて糊状に溶きます。その後、3,000ccの水を1,000ccずつ3回に分けて加え糊をつくります。タライに糊を入れ、適量の水を加えて濃度を調整します。経糸を入れて両手で糊液を揉み込みます。竹棒を総の左右に差し込み、8の字にして絞ります。片方の竹を足で踏むなどして固定すると力強く絞ることが出来ます。もう一度糊液に浸けて揉み込み、8の字絞りをします。その後、竹棒を使ってパンパンと左右に張ってしっかりさばき、糸が1本ずつ分離するようにこの作業(総さばき)を繰り返します。風通しの良いところに干して乾燥させます。乾燥させている間は、糸と糸がひっついてしまわないように15分間隔くらいでさばきます。これで経糸の準備は完了です。糊付けした糸の総延長は6073.7m。

緯糸は、糸紡ぎの稽古を始めた当初の凹凸の多い糸から順次使用することにしました。

糸枠への糸の巻き取りは2023年8月15日。整経は2023年8月31日。総経糸数は506本、両端2本取り。巻き取りは2023年9月23日～10月3日。畦返しは10月1日～3日。もじり通しはスタート位置を間違えたため途中ですべて糸を抜いてやり直し。再作業は2023年12月3日～12月28日。筈通しは2024年1月3日～1月10日。機掛けは2024年1月18日。織り上げは2024年6月6日。

今回は、最終盤でチキリ側の畦棒(経糸の輪を通しての棒)が、間丁(けんちょう)を超えて手前側に下りかけたところで折れるというアクシデントがありました。原因は、筈が手紡ぎ糸用の7羽/cmであり、もじりの間隔(9/cm)とにズレがあることを承知しておりながら、その差を微調整する法を知らずにいたことです。結果的にもじりから筈に向かう段階で糸が左右に広がり、経糸のテンションにアンバランスが生じ、その負担が畦棒に集中したことによる事故でした。整経長が420cmでありながら、織り上げ長が258cmであるのはそのためです。本来は、7-9/cmのズレを均等に解消すべく、一定の間隔でもじりを飛ばすべし、との由。

ちなみに経糸が切れた回数は1の糸が9回。2の糸が11回。いずれも両端部に集中しており、筈ともじりのアンバランスが原因。糸の細さは12番手ほどの細糸でも切れることはありませんでした。



機織り中の白木綿 (大和機)

Monthly Data

【天理やまのべ木綿庵】(問い合わせ件数 令和6年5月26日～令和6年6月25日)

東京都1、神奈川県1、三重県1、奈良県1、和歌山県1

【H.A.M.A.木綿庵】(令和6年5月26日～令和6年6月25日)

メールを含む各種相談件数2、綿畑や作業場の見学を兼ねた事前申込済来庵者数3組6名



《綿の栽培記録 2024》－ 令和6年度版 その3－

播種後6週間を経た6月16日時点で、和綿は30～40cm、洋綿は20～30cm前後まで生長しました。10号畑では、6月16日に1回目の追肥を行い、①④の畝には菜種粕と綿実粕の混合を、②、③、⑤の畝には化成888を穴肥(棒肥)で施しました。1号畑では、あえて抑制栽培を試みるため、例年よりちょうど1ヶ月遅れの6月3日に播種。前夜から一晩水に浸け置いた種です。洋綿の木綿庵アブランドと、和綿の山辺綿青木種です。虫害を受けて空いた穴には、セルポット苗を補植しました。

6月18日には、12号畑にスーピマ交雑種の苗を定植。9号畑にはシーアイランド交雑種の苗を定植しました。いずれも6月10日にセルポットに播種して育苗したものです。スーピマやシーアイランドなど超長繊維綿系のバルバデンセはむしろ6月が播種適期とお聞きしたことがあるからです。

また、6月19日には11号畑に木綿庵アブランドの苗を定植しました。6月5日に近隣の天理市立朝和小学校で綿の特別授業を担当させていただいた際に、1年生のみなさんに1人1粒ずつセルポットに播いてもらったものです。2週間学校で育苗、観察をしてもらった後、一部を校庭の学年花壇に残し、その他はひきとって当方の畑で栽培させていただくことになりました。

写真は左から、10号畑の和綿、洋綿。無人販売所の鉢植え、牛乳パック栽培の様子です。いずれも6月26日朝撮影



【研修等の記録】

- ・ 令和6年06月03日 rukki&布都正崇鍛刀場(天理市小田中町)訪問。全国コットンサミット天理大会における現地見学会の候補地の一つとして受け入れ可能のご返答をいただき、具体的な流れについてご相談。
- ・ 令和6年06月03日 天理大学社会連携センター室を訪問。天理駅前コフフンの「i connect syop」におけるスピンドル等の販売についてご相談
- ・ 令和6年06月05日 天理市立朝和小学校において「綿の種まき特別授業」を担当。1,2時限目を使って、1年1-2組約70名の児童に綿について説明。その後、全員で種蒔き作業を体験。
- ・ 令和6年06月05日 天理市商工会館にて、天理市商工会会長藤山和徳様と懇談。全国コットンサミット天理大会開催時における「後援」申請についてご相談。
- ・ 令和6年06月05日 中西製綿工場様(天理市勾田町)にて、できあがった和綴じ掛布団を受け取る。
- ・ 令和6年06月08日 天理小学校の校庭内ブロック花壇に和綿、洋綿の苗を定植。天理小学校の先生、天理高等学校農事部様にご協力をいただき、栽培に取り組むこととなる。
- ・ 令和6年06月09日 相楽木綿伝承館機織り教室(京都府相楽郡精華町)を訪問。代表の福岡佐江子様、田中様と懇談。全国コットンサミット天理大会開催時の事例発表についてご相談。
- ・ 令和6年06月11日 天理市環境経済部産業振興課を訪問。天理やまのべ木綿庵の掛布団を、天理ブランド品およびふるさと納税返礼品に申請することについてご相談。
- ・ 令和6年06月13日 さをり織りの青木様宅(天理市田部町)を訪問。全国コットンサミット天理大会開催時のWSについてご相談。ご協力いただけることとなる。
- ・ 令和6年06月15日 豊井紡績所(天理市豊井町)操業時(明治時代)の取水口について現地調査を行う。元教員の福島俊弘様にご案内いただく。
- ・ 令和6年06月18日 一般社団法人WOODMOOR「キト」様を訪問。理事長の木寺様、施設長の石原様と綿を介した農福連携のあり方について懇談。
- ・ 令和6年06月23日 天理駅前コフフン広場にて「てんだいフェスタ」に出店。スピンドル、野菜を販売。